

福井支部ニュース

2022年度 第13号

日本科学者会議福井支部

連絡先: 山本雅彦、masahiko@mbp.nifty.com

郵便振込口座番号 00710-9-17967 日本科学者会議福井支部

支部ホームページ <https://jsafukui.net/>

科学者会議本部 <http://www.jsa.gr.jp/>

今号の内容

- ◆ 第53回JSA福井支部総会が開催されます
- ◆ 時評紀行 風力発電・放射性廃棄物紀行(5) ドイツ (小野 一)
- ◆ 『福井の科学者』福井支部結成50周年記念特大号 原稿募集(再掲)

第53回JSA福井支部総会が開催されます

2023年5月13日(土) 14:00~

福井市体育館第3会議室(対面にて開催)

Zoomによるリモート参加も可

(支部会員にはメーリングリストで案内します)

議題

- 〔I〕2022年度の活動報告
- 〔1〕会員相互の交流活動と研究活動

(1) 総括

- (1-1) 第52回日本科学者会議福井支部総会について
- (1-2) 今期の活動の総括について

(2) 幹事会

(3) 北陸地区合同シンポジウム

(4) 例会

(5) エネルギー問題を考える会

(5-1) 原発問題

(5-2) 自然エネルギー利用社会づくり

(6) 『福井の科学者』

(7) 支部ニュース

(8) 支部財政活動

(9) 会員拡大

[2] 研究者の地位と権利を確立し教育研究条件を改善する活動

(1) 日本学術会議会員の任命拒否問題について

(2) 24 総学(分科会設置について)

(3) 日本学術会議中部地区科学者懇談会の活動

[3] 民主的諸団体との交流・協力・共同行動

(1) 原発反対県民会議の活動

(2) 原発問題住民運動福井県連絡会

(3) 「2.11 福井県集会」(2023/2/11、教育センター、オンライン)

(4) 「第12回 3.11 さよなら原発福井県集会 2023in ふくい」実行委員会

(5) 「総がかりアクション」「九条の会・ふくい」「ピースふくい」

(6) 科学者としての社会貢献活動

〔Ⅱ〕2023年度の活動計画

〔1〕会員相互の交流活動と研究活動

（1）支部例会・講演会・シンポジウム（「行事」）など

（2）支部機関誌『福井の科学者』の発行

（3）支部ニュースの発行（随時発行）

（4）支部ホームページ（HP）の更新

（5）エネルギー問題を考える会

（5-1）原発問題

（5-2）自然エネルギー利用社会づくり

（6）支部結成50周年記念事業【高木】

〔2〕研究者の地位と権利を確立し教育研究条件を改善する活動

（1）「科学者の権利問題委員会

〔3〕民主的諸団体との交流・協力・共同活動

（1）県内の民主的団体との協力・共同

（2）原水爆禁止2023年世界大会、同科学者集会、2023年平和行進
福井県実行委員会等の核兵器廃絶の運動との協働

（3）「2.11 福井県集会」 高教組との協働

（4）「総がかりアクション」「九条の会・ふくい」との協働

（5）「ピースふくい」の活動の協働

（6）各種講演会、学習会への講師派遣の増強、および出版物の普及による科学者の社会貢献

〔4〕全国及び北陸地区その他での活動

（1）支部間の交流・共同活動を継続する。

（2）北陸地区合同シンポジウム2023年の共催

〔5〕組織・運営の強化、財政改善【山本富士夫・山本雅彦・伊藤勇】

（1）支部の社会貢献を図り、実行する。

（2）事務局・幹事会は、総会で審議・決定された「活動計画」の各事項を執行

（3）支部ニュースを内容の充実をはかり、会員間のコミュニケーション機能を強化

（4）会費の半年分前納制を維持し滞納が起こらないよう財政状況を改善

（5）支部会員の拡大

◎次期役員・幹事の選出

支部ニュースへの寄稿・投稿を

支部ニュースを支部会員間の交流の場とするため、積極的な寄稿・投稿をお願いします。

◆ジャーナル評論：「日本の科学者」「福井の科学者」の評論

◆時事評論、意見・見解

◆活動報告・経験報告・事例紹介

◆行事案内、会員への案内・お知らせ

◆その他、エッセー、書評、文芸作品の紹介など、何でも支部ニュース担当者までメールでお送り下さい。

yamane@f-edu.u-fukui.ac.jp

ogura@u-fukui.ac.jp

2023年前期の会費納入をお願いします

新しい年が始まりました。今年前期の会費をお願いします。また、過去の未納会費のある方は、分納でも結構ですので、至急納入をお願いします。

〔時評紀行〕風力発電・放射性廃棄物紀行(5) ドイツ

ライン川上流域は、ワイン栽培のさかんな農村地帯。バーデン＝ヴュルテンベルク州ヴィール村の住民が原発建設計画を知らされたのは、1973年3月のことだった。事業者側が75年2月17日に森林伐採を始めると、反対派住民は翌日、建設予定地を占拠する。警察は強制排除に乗り出すが、この模様が西ドイツ全土にテレビ放送されると（当の地元ではカットされたい）、世論は反対運動への同情に傾いていく。2万8,000人が参加した集会を皮切りに、二度目の敷地占拠。「ヴィールの森市民大学」などのユニークな試みもなされ、運動は8ヵ月以上継続される。フライブルク行政地方裁判所の差し止め判決などを経て、州政府は83年8月30日、建設断念を突然発表する。

ドイツ反原発運動史に燦然と輝くヴィール闘争。2014年9月、私は当地を訪れた。案内してくれたのはエアハルト・シュルツ氏。環境保護団体BUNDの州事務局長を務めた同氏は、引退後はエコツーリズムのガイドもしている。まず案内されたのは、バイオマス発電施設や太陽電池パネル工場など。反原発で名を馳せた村は、エコエネルギー供給の発信地に生まれ変わっている。自分たちの使う電気は自分で作ると言える強みか。「原発に反対する者は電気を使うな」と脅しに似たレトリックで真っ当な異議申し立てが地域エゴにすり替えられてしまうのを批判しきれなかった日本社会への警告のようにも思える。

そしていよいよ係争地へ。シュルツ氏は、持参した写真を見せながら、当時の模様を語る。ライン川（対岸はフランス）沿いの森林地帯は自然保護区。説明がなければ、ここで反対派住民が警官隊と激しい攻防戦を繰り広げたことなど、想像もできない。敷地の一角に立てられた記念碑（写真左）のみが、歴史の証。自然を満喫する当時を知らない若者にも、遠くからの訪問者にも、静かにメッセージを伝えている。

「最後に素晴らしいものを見せてやる」、とシュルツ氏が言う。何かと思いきや、太陽電池パネルを備えた教会と墓地だった。こう言っては失礼

だが、美しいとは思わなかった。でもシュルツ氏は誇らしげである。故郷に変なものを作らせず、かけがえのない自然を子や孫たちに引き継いでいくために、何をなすべきか。専攻した化学の知識も活かし、多彩な活動や事業を展開してきた。試行錯誤の終着点に、太陽電池パネルと教会の組み合わせ。自然、倫理、郷土愛、テクノロジー、政治的リアリズムが、世代を超えた生命の営みが交錯する特別な場所で、融合し合う。私はそこに、大地に根を張り活動する人間の魂の叫びを感じる思いがした。

ヴィールと並ぶドイツ反原発運動のシンボルが、ゴアレーベンである。当地の中間貯蔵施設に、フランスの再処理工場から使用済み核燃料輸送がなされ、その度に反対派が抗議運動を展開した。膨大な警備費用は原発の経済性を喧伝する推進派にも疑いを抱かせ、脱原発の一因になったといわれる。ゴアレーベンはまだ、最終処分場の有力候補と目されていたが、強固な反対運動に押されるかたちで、候補地リストから外れた。政財界のあれだけの圧力を跳ね返したのは、世界的にもまれな成功例だろう。

反対運動のさなか、当地ではヴェントラント自由共和国が「独立」を宣言したこともある。小さい町を歩いていると、その頃の名残が感じられる。反対運動の拠点となった森の中では、「散歩」と称する日曜ごとのデモ行進が、今でも続けられる（写真右）。草の根の運動が政治を動かすダイナミズムが、この国にはある。これまでもこれからも、私はたびたびドイツを訪れ、インスピレーションを得ることだろう。

（小野 一）



『福井の科学者』 福井支部結成 50 周年記念特大号 原稿募集 (再掲)

『福井の科学者』の次号を、「福井支部結成 50 周年記念特大号」として今年の 12 月に発行することが支部幹事会で決まりましたので、原稿を広く募集します。支部会員の皆様の大きな協力を得なければ企画は成功しません。どうか皆様のお力をお貸し下さい。

かつて福井支部では、支部結成 5 周年記念事業としてゆきのした文化協会と協力して『父と子の原発ノート』（1978 年）を出版し、10 周年記念事業として『地域を見直す』（1984 年）と『福井の科学者』30 号（福井支部結成 10 周年記念特大号）（1981 年）を刊行しました。そして 15 周年記念事業として『地域を考える』（1990 年）を出版し、1993 年には冊子『日本科学者会議福井支部 20 年の歩み』を発行しました。しかし、それ以降は残念ながら、記念事業は行なわれていません。福井支部も結成以来 50 年の節目を過ぎたということで、今回の企画が決定されました。

会員それぞれが取り組んできた記憶に残っている活動を、記録に残す気持ちでご協力をお願いします。誌面は、今のところ 50 年間の主な支部活動を総論的に紹介するもの、原発問題、教育問題、環境問題、北陸地区シンポ、出版活動、支部例会・公開講座、まちづくり・地域問題、2.11 集会、学問の自由と科学者の権利など、特に力を注いできた問題別の原稿、会員・読者からの支部活動に対する自由な意見・提言、『福井の科学者』総目次などの資料を載せたいと考えていますが、編集についても『福井の科学者』30 号、冊子『日本科学者会議福井支部 20 年の歩み』なども参考にしながら、積極的な意見を寄せていただければと思います。

発行は今年の 12 月を予定していますので、原稿締め切りは 11 月 10 日頃を考えています。是非この企画に対する意見、原稿を下記宛てにお寄せ下さい。

高木秀男 (fwnf2030@nifty.com)

＜＜編集後記＞＞

福井支部ニュースの第 13 号をお届けします。

本号の冒頭に掲載したように、5 月 13 日（土）14:00 から、福井支部の第 53 回総会が開催されます。今回の総会は、福井市体育館第 3 会議室において、3 年振りの対面開催となります。会員各位の積極的な参加をお願いします。なお、来場が困難な会員にも参加頂けるよう、Zoom でのオンライン参加も用意します。

今号では、前号で休止していた小野一会員の時評紀行を掲載することができました。

ところで、岸田政権は、安倍政権時よりも危険な独裁政治に突き進みつつある気配です。世界の趨勢に立ち向かい、大量のトマホークミサイルなど米国で使い道のない時代遅れの兵器を爆買いし、自衛隊基地の地下化・要塞化を図っています。加えて、原発の稼働延長を図り、40 年前に建設され稼働してきた原発の稼働期間を（ほぼ無限に？）延長できるよう画策しています。ドイツでは、すべての原発が停止したと報道されました。原発は、たとえそれ自身が岸田政権の主張するように CO₂ を排出しないとしても、減少させることはありません。そもそも原発建設・維持・廃炉に至る全過程で莫大な電力を必要とし、それをクリーンエネルギーにする計画が全くない現状では、これは「大ウソ」です。さらに、外国人拘束者の人権無視政策は国連人権委員会などの勧告を無視して継続・強化し、露骨に学術会議の変質を図ろうとする、など、閣議決定で何でもできる、独裁政治体制が出来上がりつつあります。安倍、菅、岸田政権と続いた後は、あの「統一協会」が出番を待っているのではと思うと、気が滅入りそうですね。白井聡氏のいう「長期腐敗体制」です。

支部会員各位のご健勝を願うとともに、今後とも支部会員各位の支部ニュースへの寄稿をお願いします。(OG)